

平成28年度 田川郡教育研究所の主な事績

I 研究

1 田川郡教育研究所の研究主題に基づく実践及びデータの収集

- (1) 研究所員による理論研究並びに研究主題の設定
「学習指導と評価に関する研究」(6年次)
～言語活動の充実を図った学習指導と評価の実践事例の収集を通して～
- (2) 田川郡内小中学校教科等部会での研究員を中心とした情報交換及び研究・実践・記録
- (3) 各教科・領域での実践の記録を年度末に研究紀要として集約

2 教育資料の収集と整備及び活用の奨励

- (1) 田川郡内外小中学校の実践事例等の収集

II 人材育成

1 研修

- (1) 研修員研修会
- (2) 研究員研修会
- (3) 教育実践発表会並びに教育論文表彰式・発表会
- (4) 田川郡町村教育委員等研修会
- (5) 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会
- (6) 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会
- (7) 教育実践研究に関する研修会
- (8) 講師等授業力アップ講座

2 支援

- (1) 小・中学校教科等部会への研究奨励と支援
- (2) 田川郡小・中学校人材育成プログラムへの支援と助成

III 発行物等

1 研究物等の発行

- (1) 研究紀要(関係教育機関へCDで配布)
- (2) 所報(年間2回発行)
- (3) 田川郡小学校・中学校教職員名簿

2 ホームページでの情報提供

- (1) 研究所の研究内容・活動内容及び田川郡内の教育関係情報等の紹介
- (2) 教育実践等の紹介
- (3) 研修会のお知らせ

IV その他

- 1 田川郡教育研究所教育論文の募集・審査・表彰及びふくおか教育論文作成の奨励
- 2 総会(年間1回)の実施
- 3 研究所理事研修会(年間2回)の実施
- 4 所内会議(随時)

1 研究主題

「学習指導と評価に関する研究」(6年次)
～言語活動の充実を図った学習指導と評価の実践事例の収集を通して～

2 主題の意味

(1) 学習指導とは

学習指導とは学習者の学習を援助し促進する教師の営みであり、学習者の知識・理解・技能・思考・表現等の能力、及び学習意欲・態度を能率的・効果的に学習が行われるようにする教育活動である。今回の学習指導要領の改訂では基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないとしている。このことから本主題の学習指導とは、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけさせるとともに、国語科では、言語能力を培い、他の教科においては、思考力・判断力・表現力等を育成するための手立てとして言語活動を充実させる教師の能率的・効果的な教育活動を指す。

(2) 評価とは

評価は、子どもの学習状況を知り、学習目標の設定や指導方法の工夫などの改善に役立てるためのデータを得る活動である。今回の学習指導要領の改訂により、評価の観点が変更され、「技能・表現」が「技能」となり、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となった。これは、言語活動の充実を図り、基礎的・基本的な知識・技能を活用して思考力、判断力、表現力を高める学習指導が重視された結果に他ならない。新しく設定された観点である「技能」は、教科内容としての表現力をこれまで通り評価することになる。一方、「思考・判断・表現」で示された表現は、これまでの「技能・表現」で示されていた表現とは異なり、「思考・判断」したことの過程や内容がわかるように言語で表現するものである。そのため、学習指導において言語活動の充実が図られているわけである。よってこれからの評価は、思考力、判断力、表現力を評価することが重視されることとなる。つまり、本主題の評価も思考力、判断力、表現力を第一義に児童生徒の能力を見取り、計画・指導・評価・改善を有機的に結びつけることを指す。

(3) 学習指導と評価に関する研究とは

思考力・判断力・表現力を育むための、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習指導のあり方、及びそれらの力が身に付いたかどうかを見取る新しい評価について、各教科等部会ごとに教育実践研究を行い、各教科の特性及び田川郡の実態に応じた指導と評価のあり方について究明することを指す。

3 主題設定の理由

(1) 社会の要請と教育改革の動向から

知識基盤、グローバル社会化など社会が急速に変化し価値観が多様化する現代、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断することや異なる文化や歴史や立場にある人々と尊重し合って共存していくことなど、変化に対応し問題をよりよく解決する能力が一層求められている。

しかし、OECDのPISA調査、全国学力・学習状況調査など国内外の各種学力調査結果によると、我が国の子どもたちの課題として、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていないことがあげられている。

これらの状況を踏まえ、中央教育審議会が審議・答申を重ねて行われた。そして教育基本法、学校教育法が改正される中、小学校において平成23年度から、中学校においては24年度から新学習指導要領が完全実施された。新学習指導要領は、子どもたちの現状に鑑み「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の「生きる力」を育むという理念を中核にすえたものであり、とりわけ「確かな学力」については、基礎的な知識や技能を習得させるとともに、知識技能を活用した思考力・判断力・表現力を育成しながら学習に取り組む意欲を養うことを重視するという、バランスのとれた学力の育成をめざしたものになっている。特に改訂にあたって充実すべき重要事項の第1番目として「言語活動の充実」があげられ、各教科を貫く改善の視点として示された。

以上のようなことから、各教室において展開される学習指導においては、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成すべく言語活動を充実させるとともに、それらが確実に身に付いたかどうかを見取る学習評価の充実が図られなければならない。

(2) 田川郡の児童生徒を取り巻く状況から

平成23年5月、故山本作兵衛氏の描いた炭坑記録画がユネスコの世界記憶遺産に登録されたことは、田川に明るいニュースとなった。しかし、エネルギー革命による炭鉱閉山の嵐から半世紀経とうとしているが、その時の生活環境の激変は今でも田川の児童生徒に多くの面で影響を及ぼしている。

本郡の状況を見ると、経済的に厳しい状況にある家庭が依然として多いこと、基本的な生活習慣が定着しにくいこと、将来への肯定的な展望をもちにくく不登校が増えていることなどの課題が挙げられ、依然、子どもたちの学力の向上と進路の保障が大きな課題とされている。

全国学力・学習状況調査の結果を見ると、徐々に改善は見られるものの依然全国平均よりもかなり低い数値であり、特に思考力・判断力・表現力を問うB問題でポイント差は顕著である。

したがって、子どもたちの学力向上と進路保障を実現するためには、基礎的・基本的な知識技能を確実に習得させるとともに、知識技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を高める教育実践研究が喫緊の課題である。

(3) これまでの研究の経過から

当研究所では、平成10年度から平成14年度まで、「生きる力」の育成に向けて研究を積み重ねてきた。これらの研究は、授業づくりや評価活動、子どもたちの学力の向上、田川郡の教育のあり方の改善に一定の成果をあげた。

これらの研究を基礎に、平成15年度から平成17年度までの3年間、学力実態及び学力向上に関する調査・研究に取り組んできた。調査の結果では、郡内全体の平均点は依然として小中学校とも全国平均を下回っているという実態であった。

学力実態と学力向上に関する調査・研究を受け、平成18年度から22年度まで「学力向上の取り組みに関する研究」という主題に基づいて、一人一人の子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身につけるためにバランスのとれた教育を実施することにより、真に「生きる力」を育成する実践研究に取り組んできた。実施のあり方として、小中学校校長会主催による教科等部会と連携し、各教科・領域部会において学力分析を行い、子どもの実態把握の上に実践研究を進めてきた。

年 度	研 究 主 題
平成10～11年度	「生きる力」を育む授業づくり
平成12～13年度	「生きる力」を育てる総合的な学習
平成14年度	「生きる力」を育てる教育課程の展開 ～評価活動の充実をとおして～
平成15～17年度	学力実態及び学力向上の取組に関する調査・研究 ～学力検査結果の分析と実践事例の収集を通して～
平成18～22年度	学力向上の取り組みに関する研究 ～生きる力を身につけた児童生徒の育成～
平成23年度～	学習指導と評価に関する研究 ～言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価の実践事例の収集を通して～

4 研究の目標

各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動において、新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけるための学習指導と評価方法について究明する。

5 研究の内容

- (1) 各教科・領域等の学力や児童生徒の実態を分析する。
- (2) 各教科・領域等における主題を設定する。
- (3) 各教科・領域等における主題を達成すべき学習指導と評価方法を明らかにする。
- (4) 各教科・領域等において主題に基づいた実践研究を行う。
- (5) 各教科・領域等において実践事例としてまとめ、成果と課題を明らかにする。

6 研究仮説

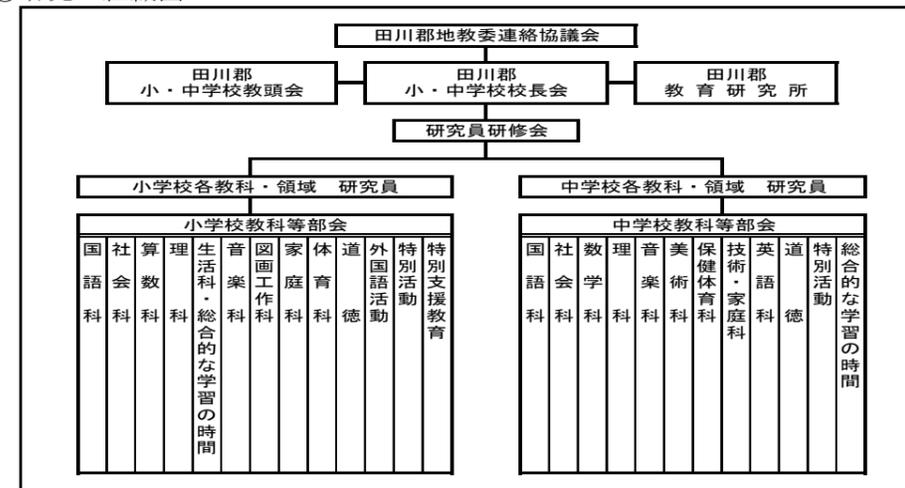
各教科・領域等において下記のような手立てをとり、言語活動の充実を図った学習指導と新しい評価を位置付けた実践研究を進めていけば、児童・生徒は新学習指導要領がめざす確かな学力を身につけることができるであろう。

- (1) 田川郡教育研究所と郡小・中学校校長会が連携し、各教科等部会を組織し、教職員が希望する教科等の理論や指導技術を磨く場を設定する。
- (2) 各教科等部会において、当該教科等における学力や児童生徒の実態や課題を明確にし、以下のように学習指導を工夫し、評価を位置づける。
 - ①指導方法（思考・判断・表現の具体化に基づいた言語活動の位置付け）
 - ②評価の位置づけ（評価規準の設定、評価方法の工夫）

7 研究の方法

(1) 研究の組織

- ①研究所員研修会
 - ア 構成 所長1名、副所長2名（小・中学校校長より各1名）、幹事1名（副所長1名が兼任）、書記1名、主任指導員2名（小・中学校教頭より各1名）、指導員4名（小・中学校主幹教諭より各2名）
 - イ 役割 研究主題や研究構想の設定、研究の年次計画の立案等、研究推進の中核となる。主題にかかわる理論研究、実態調査等をもとに研究の見通しを設定し、授業設計の方向を示す。研究員との連携を図り、実証の援助を行う。
- ②研究員研修会
 - ア 構成 研究所所員、研究員（小・中学校各教科等部会の代表）
 - イ 役割 教科の独自性を生かしながら、研究主題に基づいた指導内容・方法についての情報交換や協議を行い、課題解決に向けて計画立案し推進する。
- ③研究の組織図



(2) 研究の計画

- | | |
|--|--|
| <p>①1年次</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 研究主題の設定 イ 主題に基づく理論研究 ウ 実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動） ◇授業計画 ◇検証授業 ◇考察・まとめ エ 研究のまとめ オ 研究紀要の作成 | <p>②2年次以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 研究主題・副主題の検討 イ 主題に基づく理論研究 ウ 実践研究（各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動） ◇授業計画 ◇検証授業 ◇考察・まとめ エ 研究のまとめ オ 研究紀要の作成 |
|--|--|

8 研究員の役割

実践の中核となる。教科等部会での理論研究・実態調査をもとに研究仮説を設定、授業を通してデータの収集・分析を行い、研究主題の解明にあたる。

研究発表校の紹介

平成27・28・29年度 福岡県重点課題研究・委嘱事業
 福智町立市場小学校 「中間報告会」

【実施日】 平成28年11月18日（金）

【研究主題】

体力向上に向けて主体的に取り組む子どもの育成
 ～食育と体育における環境づくり・活動プログラムづくり・授業づくりの工夫を通して～

【研究の特色】

主体的に体力向上に取り組む子どもを育成するために、食育と体育において子どもの発達段階や実態に合わせた環境づくり・活動プログラムづくり・授業づくりの工夫について究明することを目標とし、3つの視点で実践を行ってきた。

視点1 学校における子どもの体力向上推進体制等の整備

本研究を進めるために、環境づくり部・活動プログラムづくり部・授業づくり部に分かれて組織づくりを行い、役割を分担・協力して研究を進めた。また、学識経験者を活用した校内研修として講師を招聘し、計画的に理論研修を行った。

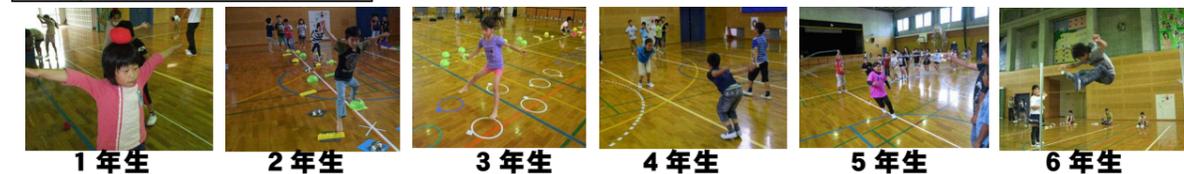
視点2 発展的なスポーツ医・科学や栄養学などを取り入れた「活動プログラム」などの構築

発展的な活動プログラムづくりに向けて、活動プログラムづくり部を中心に各学年の実態や運動に関する情報提供を行うとともに活動日時を調整し、道具の整備を行った。それをもとに各学年で子ども達の体力に関する課題を見つけ、その解決をめざしながら「体を動かすのが楽しい。おもしろい。もっとやってみたい。」と思うことができるような活動プログラムを作成し、定期的に見直し、修正しながら計画的・継続的に実施した。

写真①道具の整備



写真②活動プログラムの様子



視点3 運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成を図る指導の充実

食育と体育における指導力向上をめざし、授業づくり部を中心に授業の組み立て方や手立ての設定の仕方等の理論研修を行い、提案授業を行った。それをもとに中間報告会において全学級授業公開を行い、研究のまとめを作成した。また、体育と食育における学習環境の向上をめざし、環境づくり部を中心に掲示に関する情報提供を行うとともに、定期的な掲示のために掲示物を整理、保管した。

【成果と課題】

- 研究組織として環境づくり部・活動プログラムづくり部・授業づくり部を位置づけたことにより、体力向上に向けて視点に沿った研究を進めることができた。
- 活動プログラムの実施により子ども達が体力向上に関心をもち、運動に対して積極的に関わることができるようになった。
- 体力向上に向けた指導について、低・中・高学年で交流する場を設定し、系統性を踏まえた指導の工夫について研究を進める必要がある。

研究発表校の紹介

平成28年度 「福岡県道徳教育推進事業」に係る地区別道徳教育研究協議会
 大任町立大任中学校・大任小学校・今任小学校

1 実施日 大任中学校 平成28年11月1日（火） 会場：大任中学校
 大任・今任小学校 平成28年11月30日（水） 会場：大任小学校

2 研究主題

考えの違いから自己の生き方を深める子どもの育成
 ～思いの視覚化を図り、主体的に表現する活動の設定～

3 主題設定の理由

最近、社会環境の変化等から児童生徒の興味・関心の多様化・早熟化の傾向が見られ、これに起因すると考えられる中1ギャップ、犯罪・非行の若年齢化等の問題が深刻化している。本町の小中学校でも教員の「心の教育」に対する必要感・危機感が高く、従来行ってきた道徳教育や道徳の時間の指導のあり方では時代に対応できていないのではないかと大きな問題意識を抱えていた。

平成23年の大津のいじめ自殺事件を機に、深刻な社会状況の中で生徒が自他の心の問題に対し主体的によりよく対処できる道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育成することが強く叫ばれている。これを受け、平成27年3月27日に学校教育法施行規則及び学習指導要領が一部改訂され、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として新たに位置付けられた。そして実施のキーワードとして「アクティブラーニング」や「考え、議論する道徳」などが挙げられている。前述した、道徳教育に対する教員の不安感を払拭するための答えの一つがここにあると考えた。町の教職員全員で「特別の教科道徳」「考え、議論する道徳」に取り組み、より深く子どもの心を耕すことができるよう協同研究を行うことが、時代や社会の要請に応えることになる。また、自分たちの道徳教育に対する技能や自信の向上、ひいては子ども達の幸せに繋がると考え、本事業を受け実践研究を行うことにした。

4 研究の特色・実際

「考えの違いから自己の生き方を深める子ども」とは、自らがもつ道徳的価値や心情について他者の様々な考えを聞いて再検討したりコミュニケーションしたりしながら、自分にとってよりよい生き方を見出ししていく子どものことである。そのような児童・生徒を育成するために以下のような表現活動の工夫を手立てとして設定した。

（1）思いの視覚化

道徳的問題に対して自己の経験と照らし合わせて導き出した考えをハート図、心情円盤、付箋紙などに表すことである。自分の頭の中にある経験やその時に感じた心情や判断を外に出すことを促し、共通理解しやすい視覚化されたものにする事で、自己の道徳的傾向性を知るだけでなく他者の傾向性を引き出すことができる。よって対話が活性化しコミュニケーションを成立させることが容易になる。

視覚化を図るために、具体的には右頁のような視点から教師がねらうべき道徳的価値に基づく価値・資料分析を行い、より効果的な表現活動を選択して授業の中で活用するようになった。



【ハート図で考えを表現】



【付箋で考えを表現】

小学校教科等部会 活動報告

学習のねらいから	思いの表れ方	視覚化の方法
道徳的価値と人間の弱さの葛藤を深める。	善悪の心の葛藤の割合	ハート図、心情円盤、シーソー図の活用
道徳的価値を多面的・多角的に見つめ価値を追求する。	個々の思いを言語化したものの集合	自分の考えを記述した付箋やワークシートを板書や交流ボードに比較・分類
資料中の人物に同化させ、共感的に心情の理解を図る。	演技中の表情、動き	場面の再現、役割演技、動作化、劇化

(2) 主体的に表現する活動

思いの視覚化を図った個人の表現物をもとに、互いの考えを交流できるように場を設定することで。具体的には役割演技の設定やシンキングツールを活用した交流活動、道徳実践のモデリングなどである。この活動は、展開前段に設定したり導入部と終末部で比較設定したりと、ねらう価値、中心場面、児童生徒の問題意識の流れに照らし、最も相応しい学習場面で展開させるようにする。



【心情円盤で発表】

【ホワイトボードミーティングで議論】

【寸劇で動作化】

以上の手立てを用いながら、教材を4つの活用類型（共感的活用・批判的活用・感動的活用・範例的活用）に照らして活用した。その際、児童生徒の問題意識や思考の流れに沿った学習展開になっているか、ねらいに適した発問になっているかを吟味することで「主体的に表現する姿」を引き出し、「主体的・対話的で深い学び」の中でねらいとする価値に迫る道徳授業を目指し検証を重ねた。

5 成果と課題

(1) 成果

- この事業を受け、小中学校3校合同で研究実践を行ったことで、道徳の教科化へ向けての職員の意識が高まり、授業改善への意欲と協働意識を高めることができた。
- 資料の活用類型、中心発問、思いの視覚化を図る表現活動に焦点をあて研修を深めたことで、教師の授業の技量が高まってきている。
- 様々な表現活動を行い、慣れたことによって児童・生徒の思考・表現が活発になり、主体的に考えを表現することや活発な交流活動ができるようになってきた。
- アンケートの「友だちの考えと自分の考えを比べながら聞いている」という項目が95%を占める学年もあり、教師が思いの視覚化を図る表現活動の工夫をすることで児童・生徒の交流技能も高まり、成就感も深まっている。

(2) 課題

児童・生徒が自分の考えをつくり、表現・交流することについては一定の成果があったと考える。しかし「考えの深さ」については依然不十分である。教科化へ向け、特に、「深い学び」と「評価」について更に研修を重ね、継続的・系統的に授業実践を積み重ねていく必要がある。



【ワークショップ型分科会】



【分科会 KJ法での協議】

【国語科部会】 校長 船瀬 安仁

- 第1回 「改訂に向けた国語科の動向について」
講師 筑豊教育事務所 岡松 賢吾 指導主事
- 第2回 「国語科の授業づくり（文学）」
講師 筑豊教育事務所 中山 博紀 指導主事
- 第3回 授業研修会
授業者 糸田小学校 教諭 國本 裕司 先生
単元名 物語の魅力伝え合おう
「大造じいさんとガン」
- 第4回 「国語科の授業づくり（説明文）」
講師 筑豊教育事務所 中山 博紀 指導主事

【社会科部会】 校長 高上 克也

- I・組織作り及び年間計画の作成
・1学期の各学年の交流及び全体交流
- II フィールドワーク研修
◇めんべい添田工場 ◇道の駅歓遊舎ひこさん
- III 授業研修会
・採銅所小学校 教諭 西本 直 先生
・第4学年「焼き物を生かしたまちづくり」
- IV・実践報告 ◇採銅所小 西本 直 教諭
◇赤小 山本 徳和 主幹教諭
・年間のまとめ及び次年度に向けて

【算数科部会】 校長 辻 眞作

- 第1回 部会長からの問題提起と方向性の決定
組織作り及び学年部会の年間計画作成
- 第2回 授業改善につながるミニ問題
実践発表【赤小 千々岩先生】
- 第3回 公開授業研修会への参加
筑波大学附属小 夏坂 哲志 先生
※ 各部会ごとに実践
- 第4回 部会長からの問題提起
部会ごとの実践交流会及び年間の総括

【理科部会】 校長 縄田 和之

- ・実践交流、学習指導情報交換
- ・講師招聘研修「実験講習会」
講師：福岡県教育センター指導主事
下川 嘉満先生
- ・筑豊地区小学校理科研究会研修会への参加
- ・福岡県小学校理科教育研究大会への参加
- ・まとめと次年度の課題整理

【生活科・総合的な学習の時間部会】

校長 中川 真一

- ・組織づくりと活動計画案の作成、情報交換
- ・講師招聘による研修会（演習及び講義）
内容：豆腐作りについての講義及び調理実習
講師：西山 裕子 氏(田川地区幾重の会会長)
- ・各校での授業実践
- ・本年度の反省とまとめ

【音楽科部会】 校長 渡邊 伴子

- ・組織作り及び年間研修計画 実践発表
- ・講師招聘研修会（講話・演習）
「音楽のよさを感じ取り、主体的に表現や鑑賞に取り組む子どもの育成」
北九州市立中尾小学校
校長 倉本 京子 先生
- ・公開授業研修会
採銅所小学校 教諭 帆足 梓 先生
題材「日本の音楽を楽しもう」
- ・実践交流及び協議、本年度のまとめ

【図画工作科部会】 校長 金子 祥二

- 6月 組織作りと活動計画作成
- 7月 実技研修（6年教材墨を使って）及び作品の相互鑑賞
- 12月 県小児童画展田川郡審査(大任小)
県小児童画展筑豊地区審査(大分小)
- 1月 実践レポート綴じ合わせと実践交流
及び特選作品鑑賞と本年度のまとめ

【家庭科部会】 校長 縄田 房枝

- 組織づくりと年間活動計画作成
- 講師研修会（講話及び実技講習）
講師：添田町食生活改善推進協議会
会長 高瀬 知恵子 氏
内容：講話「発酵食品の効果について」
実技講習「発酵食品を使った調理実習」
- 筑豊地区小学校家庭科教育研究大会参加
「豊かな家庭生活を築く
実践力を育てる家庭科教育」
- 授業実践交流会本年度のまとめ

小学校教科等部会 活動報告

【体育科部会】 校長 石堂 昌彦

- 第1回部会 6月21日(糸田小)
組織づくりと年間計画及び4部会の情報交換
- 第2回部会 7月22日(糸田小)
表現運動実技講習及び近接学年別の実践交流
- 第3回部会 11月22日(川崎小)
公開授業研 川崎小 林 健二 教諭
「ゴールでスマイル! 5の1バスケット」
指導助言 福岡県体育研究所
指導主事 村山 直樹 先生

【道徳部会】 校長 小峠 英人

- 第一回部会 6月21日(中津原小)
・組織作り ・演習
- 第二回部会 7月22日(中津原小)
・指導主事を招聘した研修会実施
・演習 発問作り「およげないりすさん」
- 第三回部会 研究発表会参加
「嘉徳小学校」「大任小学校」
- 第四回部会 1月24日(中津原小)
・実践発表 中津原小 教諭 木下直哉
・演習 「手品師」最後の発問は?

【外国語活動部会】 校長 森 隆子

- ① 第1回部会 6月21日(池尻小)
組織づくりと年間計画及び情報交換
- ② 第2回部会 7月22日(池尻小)
研究発表 赤小 山内淑子教諭「反応表現」
- ③ 第3回部会 10月27日(赤小)
公開授業: 赤小 山内淑子教諭
講師: 筑豊教育事務所 田中啓子指導主事
- ④ 第4回部会 1月24日(池尻小)
まとめと次年度の方向性について

【特別活動部会】 校長 井上 憲治

- ・組織作りと活動計画 ・内容の確認
- ・低・高学年部会ごとの情報交換と交流
- ・授業研修会 平成28年10月27日(木)
川崎東小学校 教諭 柳井 文陽
第5学年 学級会活動(1) 一ウ
- ・まとめ及び次年度への課題整理
今年度は、12月7日(水)直方市立北小学校で筑豊地区大会を開催し、多くの部会員が参加しました。みんなの熱い思いが研究協議で感じられ盛会に終わることができました。

【特別支援教育部会】 校長 吉松 信吾

1. 組織づくり、年間活動計画及び情報交換
2. 講師研修会 講師: 筑豊教育事務所SC・SV 藤田 純 先生
講話: 「相談事例から見た発達障害児等の現状と課題」
3. 実践報告 報告者: 伊方小学校 教諭 児玉 啓子 先生
「特別支援学級の集団における授業づくり」～自立活動の時間における指導の実践～
実践交流 具体的な教材教具の紹介、具体的実践、校内推進体制。

◇ 平成28年度 研究員【小学校教科等部会】

教科・領域	職名	研究員名	小学校名
国語	教諭	國本 裕司	糸田小
社会	教諭	牟田 佳史	川崎東小
算数	教諭	坂本 真一	落合小
理科	教諭	植 聡広	今任小
生活・総合	教諭	角谷 朋恵	池尻小
音楽	教諭	帆足 梓	採銅所小
図画工作	教諭	中野 浩子	池尻小
家庭	主幹教諭	原 朋美	上野小
体育	教諭	林 健二	川崎小
道徳	教諭	木下 直哉	中津原小
外国語活動	教諭	山内 淑子	赤小
特別活動	教諭	柳井 文陽	川崎東小
特別支援教育	教諭	児玉 啓子	伊方小

◇ 平成28年度 研究員【中学校教科等部会】

教科・領域	職名	研究員名	中学校名
国語(書写)	教諭	犬丸 成美	鷹峰中
社会	講師	木村 誠治	池尻中
数学	講師	岡崎 龍	方城中
理科	助教諭	白石 智	赤池中
音楽	教諭	高柳 麻巳	赤池中
美術	教諭	七俵 正秀	勾金中
保健体育	教諭	佐々木 佳子	赤池中
技術・家庭	主幹教諭	長畑 理恵	川崎中
英語	教諭	中西 由恵	大任中
道徳	教諭	山本 秀信	香春中
総合的な学習	教諭	岡本 朋子	糸田中
特別活動	教諭	新貝 拓二	勾金中

中学校教科等部会 活動報告

【国語科部会】 校長 村上 きぬよ

- 総会及び研修会 (6/23 糸田中学校)
・組織づくり、年間計画作成
- 筑豊地区中学校国語科研究大会参加
- 田川郡書写大会の実施 (10/13)
- 県中学校国語科研究大会参加 (北九州市)
- 公開授業研究会 (11/20) 金田中学校
【授業者】金田中学校 芳野 友希先生
2年 読むこと「いにしへの心を訪ねる」
「扇の的一『平家物語』から」
- JA 作文募集及び審査

【社会科部会】 校長 三賀山 宏

- 研究主題
思考力・判断力・表現力を高める
社会科指導の工夫
- 第1回研修会 6月23日 香春中学校
組織づくり 研修計画作成 活動内容確認
- 第2回研修会 10月17日 勾金中学校
公開授業者 大鶴 裕司
単元名 2節ヨーロッパ州
- 研究紀要執筆・審議 12月～1月
研究員 木村 誠治(池尻中学校)

【数学科部会】 校長 堀川 浩昭

- 本年度の研究主題
確かな学力を育む数学科学習指導法
- 第1回部会 (6月29日)
研究テーマの確認、今年度の組織づくり
研修計画作成、活動内容の確認
- 第2回部会 (公開授業: 12月2日)
・会場: 川崎中学校
・授業者: 徳永 章宏 先生
・単元名: 第3学年「図形と相似」
- その他(年間のまとめ等)

【理科部会】 校長 坂本 和紀

- 組織づくり、研修計画作成 (6月)
- 公開授業 (10月)
・会場 勾金中学校
・授業者 桑野 善徳 先生
・単元名 「電流とその利用」
- 研究協議 (10月)
・実験を主体とした授業の構成について
・理科授業での「アクティブラーニング」
「学び合い」の効果的な展開について

【音楽科部会】 校長 友松 秀樹

- 組織・活動計画策定 (6月)
- 研修 (9月)「音楽科評価について」
講師 県教育センター
指導主事 角 彩子 氏
- 公開授業 (12月)
題材名「箏に親しもう」
授業者 赤池中 高柳 麻巳 先生
- 各校合唱コンクールへの協力体制づくり
- 研究のまとめおよび紀要の原稿審議(12月)
執筆 赤池中 高柳 麻巳 先生

【美術科部会】 校長 伊藤 敬之

- 総会及び研修会 (6/23 池尻中学校)
・組織づくり、年間計画作成
- 第60回福岡県中学校美術教育研究大会への参加 (11/15 北九州市立高見中学校)
講演「育成する資質・能力と学習内容との関係を明確にした授業づくり」
文部科学省 教科調査官 東良 雅人 氏
- 福岡県及び筑豊地区中学校美術作品展での作品展示 (11月)

【保健体育科部会】 校長 川浪 修司

- 第1回 保健体育部会 (6月)
・組織づくりと年間計画の作成
・靴紐の結び方と捻挫等の応急処置
(講師招聘)
- 公開授業《11月17日(木)》勾金中
・単元 「ダンス」 ～創作ダンス～
・授業者 勾金中 緒方 洸貴 教諭
- 第2回 保健体育部会 (3月)
・次年度の組織づくり(案)の作成

【技術・家庭科部会】 校長 縄田 哲也

- ・総会 (6月 川崎中学校)
組織づくり、年間活動の作成及び確認
- ・公開授業(家庭科)研修会
1月26日 方城中学校 桑野 春香
「食生活と自立」
※平成29年度県中学校技術・家庭科研究大会公開授業に向けて検証授業
- ・福岡県中学校技術・家庭科研究大会 参加
- ・福岡県中学校技術・家庭科作品展 作品展示

中学校教科等部会 活動報告

【英語科部会】 校長 奥 浩 幸

英語部会では、今年度は、「読む」「聞く」「話す」「書く」という四技能の統合を図る授業づくりをテーマにし、研修会を2回実施しました。9月27日には赤中学校において「学習到達目標の設定」についての研修を、11月17日には大任中学校において公開授業・研究協議を実施しました。公開授業では、「表現の能力の育成」についての提案授業・協議を行いました。協議の最後には、今後の授業づくりについて、教育センターの指導主事より指導・助言を頂き、多くの先生方の参考となりました。

【総合的な学習の時間部会】 校長 白石 俊 幸

本年度の研究テーマ
「実践の交流」
6/29 田川地区総合部会…組織、役割分担
11/22 平成28年度実践報告会・講演会
(福岡市教育センター 於)
1月 平成28年度の実践報告

【道徳部会】 校長 栗林 秀 幸

・総会及び研修会(6/24)
組織づくり、年間計画作成、実態交流研修
・公開授業研究会(11/1)大任中学校
研究主題～考えの違いから自己の生き方を深める子どもの育成～
[授業者]
中西由恵先生 田中美穂先生 園山 勝先生
吉田大地先生 後藤健太先生 松尾輝将先生
・福岡県中学校道徳教育研究大会参加(11/2)
於 今元中学校

【特別活動部会】 校長 堀川 浩 昭

・総会(6月 赤池中学校)
組織づくり、年間活動の作成及び確認
・実践研究及び紀要執筆
「人間関係づくりの視点を取り入れた合唱コンクールの取組」
～学び合い学習の理念を通して～
勾金中学校 教諭 新貝 拓二
・第21回福岡県中学校特別活動研究大会参加
(福岡市教育センター)

平成28年度 教育実践発表者の紹介

- ◆平成28年度 田川郡教育研究所教育実践発表会並びに教育論文表彰式・発表会
 - ◇福智町立弁城小学校 教諭 楠木 文太郎 先生
『構成を工夫して明確に表現する国語科学習誘導』
～書くことの価値を味わう学習材と相互評価を位置づけた学び合い～
 - ◇福智町立方城中学校 教諭 植田 泰司 先生
『学級一人一人の意見を活かす学級活動』
～合唱コンクールに向けた話し合い活動の指導を通して～
 - ◇川崎町立池尻中学校 教諭 上田 苑加 先生
『説得力のある文章表現ができる生徒を育成する国語科学習指導の研究』
～教材の論理の一般化と活用を図る、「読む」と「書く」をつなぐ指導の工夫を通して～
- ◆平成28年度 筑豊地区教育研究所連絡協議会教育実践発表会
 - ◇川崎町立真崎小学校 教諭 樋口 恵子 先生
『「一人ひとりのよさが輝く真崎っ子」の育成』
～学校のリーダーを育てる高学年学年集団作りを通して～
- ◆第45回 福岡県教育研究所連盟研究発表協議会
 - ◇大任町立大任中学校 教諭 中西 由恵 先生
『「読むこと」から得た知識等を関連付けて「自分の考え」を英語で書くことができる生徒を育てる中学校第2学年外国語科学習指導』
～「読む活動」と「書く活動」における「構造マップ」の活用を通して～

平成28年度 研修員研修会を受講して

『算数的な思考力・表現力を育てる算数科学習指導の研究』 ～第6学年の量と測定における算数的活動の工夫を通して～

川崎町立池尻小学校 教諭 鍋藤 杏佐子

私は、この研修を通して研究することの大切さ、研究の仕方を学ぶことができました。主題や副主題では、どのような児童を育てたいのかをじっくり考えることができました。その手立てを悩み、明確なものを決めるまでとても時間がかかりました。研究を進め、まとめていく作業はとても大変でしたが、自分自身が目的を持って手立てを意識しながら進められ、子ども達の成長を感じることができたことは私にとって大きな成果でした。この経験を生かして、これからも子ども達が楽しく学べる授業づくり、学級づくりに取り組んでいきたいと思えます。一年間、ご指導いただき本当にありがとうございました。

『協力し合って楽しい学級生活をつくらうとする子どもを育てる学級活動』 ～自発的にイベントを企画・実践・改善する指導の工夫を通して～

糸田町立糸田小学校 教諭 品川 佑斗

本研修を通して、意図的・計画的に実践したことを、子どもの事実に基づいて考察し、改善するというサイクルの大切さを学ぶことができました。なかなか目標に向かって自分の実践を焦点化することができず、迷うことが多々ありました。しかし、的確な指導を頂きつつ自分の実践と向き合う中で、児童の実態から主題・副主題を定め、そこにたどりつくための手立てを考え、実践し、改善するという意識をもちながら研究を進めることができました。本研究のみならず、この意識があらゆる教育活動において働き、児童の成長につながったことを感じました。本研究における成果と課題をもとに、さらに研究を深め、子どもの可能性を引き出す実践を重ねていきたいと思えます。一年間ご指導いただきありがとうございました。

『地理的分野における表現力を高める社会科学習指導法の研究』 ～多面的な資料を活用した「学び合い」活動を通して～

香春町立勾金中学校 教諭 大鶴 裕司

平成28年度研修員として本研修を受講させていただきました。この研修を通して、自らの授業について考えることができました。生徒に力を付けさせるために、どのような手立てを取ればよいのか、どのように検証授業を行えばよいのか、その結果からどのように改善していけばよいのかなど、大変多くのことを学ぶことができました。その中で、生徒の意識の変容を感じることができました。今回の研修で学んだことや見えてきた課題に対して、これからも研修に努めていきたいと思えます。一年間ご指導いただきありがとうございました。

『自己表現力を養う英語科学習指導法の研究』 ～基礎スキルの定着を基盤とした読む活動と書く活動を連動させた単元の工夫を通して～

糸田町立糸田中学校 教諭 辻 明歩

私はこの研修を通して、研究の進め方を学ぶと共に、1時間の授業に含まれる活動の有用性や評価の目的など、自分自身の考えの中でしっかりと考えきれていない部分があるということに気付くことができました。本研究では実践を2回行い、そこで伸ばしたいと思う力にどのように効果があったかというのを調べて行く必要があったため、あらかじめ設定したゴールにどのように近づいていけば良いかを考えながら授業を構成することができました。無駄のない効果的な活動を選択することもできるし、生徒の目的意識の向上にも繋がると思えます。今回の研修を通し、まだまだ勉強が必要だと感じました。もっと生徒が主体的に学び、意味があると感じられる授業を作ることができるように今後も邁進していきます。

◆平成28年度 ふくおか教育論文 応募者・入選者

No.	区分	氏名	職名	所属校	応募部門	応募内容	受賞
1	個人	山口 大介	教諭	勾金小学校	学校教育	算数・数学 「数学的な思考力・表現力を高める算数科学習指導」 ～自力解決に向けた支援と交流活動の工夫を通して～	
2	個人	國本 裕司	教諭	糸田小	学校教育	国語 「中心を明確にして書くことができる子どもを育てる第3学年国語科学習指導」	
3	個人	福岡 理紗	教諭	上野小	学校教育	国語 「論理的に読み表現する力を育てる第5学年国語科学習の指導」 ～問いをもちながら考える学習展開の工夫を通して～	佳作賞

◆平成28年度 田川郡教育研究所教育論文 応募者・入選者

No.	区分	氏名	職名	所属校	応募部門	応募内容	受賞
1	個人	奥 拓也	教諭	川崎小学校	学習指導法	言語活動の工夫 「数学的な考え方を高める第5・6学年算数科学習指導」 ～1単位時間の各学習段階における言語活動の充実を通して～	
2	個人	中村 廣	教諭	赤池中学校	学習指導法	教科指導 「外国語教育における学ぶ意欲の喚起を導き出す指導方法の探求」 ～Situationally Appropriate～ (授業における実践英語の活用とその考察)	

◆平成28年度『教育実践研究に関する研修会』受講者

No.	氏名	職名	所属校	教科等	備考
1	森 一滋	教諭	糸田小学校	国語	
2	飯野 利恵	教諭	大任中学校	社会	

◆平成28年度『講師等授業力アップ講座』受講者

No.	氏名	所属校名	職名	教科等	No.	氏名	所属校名	職名	教科等	
1	宮島 啓人	中津原小	講師	国語	1	甲斐 裕佳	香春中	講師	国語	
2	上村 勇広	赤小			算数・数学	2	平松 怜		大任中	算数
3	白水 英史	真木小				3	木戸 総司			理科
4	藤島 佳代			国語	4	濱本 悟	添田中		算数・数学	
5	上村 智沙				5	平林 大				川崎中
6	篠田 啓介	川崎小		算数・数学	6	仲野 明志	池尻中		国語	
7	田上 沙織	真崎小	7		上田 佳苗	算数・数学				
8	小野 孝太郎	池尻小	助教諭	国語	8	佐藤 貴子	赤池中	助教諭	理科	
9	丸山 泰平				9	白石 智				
10	谷村 恵之介	糸田小	講師	算数・数学	10	田中 勇輝	赤池中	講師	国語	
11	山内 葉月				11	末吉 加奈				
12	田中 さやか									

食育だより

添田町立添田小学校
栄養教諭 井手口 裕子

田川郡学校給食会では、今年度の食物アレルギー対応の実態について報告します。

現在、田川郡内で食物アレルギーを持つ児童生徒が在籍している給食施設は11施設あり、そのうち給食調理場内で除去食・代替食等の対応を実施しているのは9施設です。田川郡全体で約74名の児童生徒が除去食・代替食の対象となっており、そのうちエビペンを持参している児童が2名います。主な原因食品としては甲殻類が最も多く、次いで卵、落花生、乳となっています。具体的な食物アレルギー対応については、多くの施設が平成27年3月に文部科学省から出された「学校給食における食物アレルギー対応指針」を参考にしています。この対応指針は、平成24年に調布市で起きた死亡事故を受け、再発防止を目指して作成されたものです。具体的な対応の流れはもちろんのこと、食物アレルギー対応の大原則として校長を責任者とする対応委員会等を立ち上げ、組織的に行わなければならないことが強調されています。給食が子どもの口に入るまでには、調理場職員だけでなく担任等多くの関係職員が関わります。各場面で、担当者の主体的な対応が必須です。

今後は、この対応指針を参考に、各教育委員会や調理施設の実態に応じた対応マニュアル等の整備をしていきたいと思います。

養護だより

福智町立赤池中学校
養護教諭 日高 寿代

田川郡学校保健会では、11月30日に北九州市にある2カ所の施設を視察研修しました。

〈研修1〉産業医科大学若松病院では、院内でリハビリ治療を受けている患者の様子や施設設備の見学を行い、その後、整形外科医の内田宗志先生の講話を聴きました。成長期の児童生徒に発症しやすいスポーツ障害とストレッチの方法を実際の症例を基に学びました。また、運動で体を痛めている児童生徒に対応する際の応急処置等、実践に活かせる参考となる研修になりました。

〈研修2〉堀真一郎学園長が経営する私立学校、北九州子どもの村小・中学校では、豊かな自然の中で、いきいきと学ぶ子どもの様子を見ることが出来ました。子どもたちが自由にカリキュラムを組み、子どもと大人の話し合いを通して自己決定をしているそうです。この自己決定、個性化及び体験学習の3つを学校の基本方針として、感情・知性・人間関係を柱に教育目標である「自由な子ども」の育成に取り組んでいる学校を視察しました。1月31日には、第2回講演会で石崎杏理さんを招き「LGBTQの発信の仕方」について講演して頂き、ジェンダーの捉え方、ワークショップの実践にあたっての留意点等を学びました。このような研修で相手の立場に立って考えることの大切さを改めて感じました。これは普段、子どもと接する私たちにとって子どもの立場に立って考えることの大切さに通じるものだと思います。子どもの心に寄り添いつつ個々に必要な支援や指導を行い、成長の手助けをしていきたいと思います。

田川郡教育研究所

[所在地] 〒825-0002
田川市伊田松原通り 3292-2 田川総合庁舎 筑豊教育事務所田川駐在内
[TEL・FAX] 0947-47-1081
[E-mail] tagawa-lab@fukuoka.email.ne.jp
[URL] http://www.tagawa-lab.sakura.ne.jp/

所長 平野 志津夫
副所長 白石 毅 (今任小学校 校長) 副所長 奥 浩幸 (赤 中学校 校長)
幹事 白石 毅 (今任小学校 校長) 書記 有田 真理子
主任指導員 藤田 昭介 (糸田小学校 教頭) 主任指導員 柴田 徹 (糸田中学校 教頭)
指導員 神崎 育子 (真木小学校 主幹教諭) 指導員 長畑 理恵 (川崎中学校 主幹教諭)
指導員 宮成 努 (香春小学校 主幹教諭) 指導員 桑城 直子 (方城中学校 主幹教諭)